令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
96	川崎市立 東生田 小学校	猊倉　正樹

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標	
かかわりあいの中で育ち、学び、高まる子を育てる学校 ≪めざす子ども像≫「明るい子」「やさしい子」「たくましい子」「伸びる子」 ≪育成する力・能力≫『わかくさ』 「わたしをつくる力」「かかわる力」「くらしに生かす力」「さぐる力」 ※≪めざす子ども像≫≪育成する力・能力『わかくさ』≫を連動。 「明るい子」…「わたしをつくる力」 「やさしい子」…「かかわる力」 「たくましい子」…「くらしに生かす力」 「伸びる子」…「さぐる力」	わかくさっ子を育成する学校 1　わたしをつくる力を育てる学校 ①児童の自主的活動の充実 ②児童の安心安全のための児童支援 ③地域と連携した学習の充実 2　かかわる力を育てる学校 ④いじめを生まない・認めない学年・学級づくり ⑤異学年交流の充実 ⑥学校全体で取り組む児童指導 3　くらしに生かす力を育てる学校 ⑦学習で培った力を生かすための仕掛け ⑧防災・安全教育への取組 ⑨学校評価を学校経営改善に生かす 4　さぐる力を育てる学校 ⑩子どもの学びを大切にした指導法の研究 ⑪効果的な教育課程の創造に向けた取組 ⑫特別支援教育・個別支援教育の取組	①子どもの創意を大切にした学校行事の取組、ノーチャイムによる児童の生活力向上、「60周年記念式典」に向けての取組 ②問題の未然防止に向けた取組、支援教育Coを中心とした教育相談体制、特に児童自らが相談できる体制の充実、全職員での情報共有 ③地域の素材を生かした学習材の開発・整理、地域人材の活用、「地域の寺子屋」との連携・発展 ④ルールとリレーションを確立した学年・学級集団の育成、学級状態の評価と改善点の明確化、だれでも気軽に相談できる相談体制の充実、SOSの出し方教育、命の授業の実践、「他者理解」「他者意識」をもった学校生活における指導 ⑤児童会主体の活動を推進 ⑥教職員が率先垂範 ⑦児童会活動や日常的な教育活動での言葉へのこだわりと温かい評価、家庭へのフィードバック ⑧大規模災害を想定した危機対応の改善・強化、「自分の命は自分で守る」という意識の涵養、保護者を巻き込んだ情報モラルの指導とオンラインゲーム等今日的課題への対応、交通事故の防止、不審者対応 ⑨学校だより、情報配信メール等による情報発信と内容の充実、学校評価の定着 ⑩自分の考えを深める学びの研究、協働的な学習の取組、粘り強く学習できる子の育成、創造力を豊かにするための「読書」活動の充実 ⑪教科担任制を意識した交換授業や専科指導の試み、情報教育への適切な対応（学習面、環境面、HP、GIGA） ⑫限られた資源で個々の教育的ニーズに対応できる支援体制の工夫、通級指導教室の充実と様々なニーズへの対応、国際教室の充実

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	わたしをつくる力を育てる学校	①子どもの創意を大切にした学校行事の取組、ノーチャイムによる児童の生活力向上、「60周年記念式典」に向けての取組 ②問題の未然防止に向けた取組、支援教育COを中心とした教育相談体制、特に児童自らが相談できる体制の充実、全職員での情報共有 ③地域の素材を生かした学習材の開発・整理、地域人材の活用、「地域の寺子屋」との連携・発展	○各委員会による集会や各学年の60周年記念式典に向けた取組などを児童の案を尊重しながら進めることができた。ノーチャイム実施4年目を迎え、ほとんどの児童が自ら時間を確認し、声をかけながら行動ができるようになってきた。 ○支援教育COを中心に、問題を教師間で状況共有をし、連携のとれた児童支援ができている。 ○60周年記念式典に向けて、全校が一つの目標に向かって協力し合いながら行動することができた。 ○今年度も日向山をはじめ、恵まれた地域教材をふんだんに学習に取り入れ、本校らしい教育課程を育むことができた。また、ゲストティーチャーをお呼びして、授業等行っている。今後も充実させていきたい。 ○水曜日の放課後、「地域の寺子屋」を開設し、本校の教育活動の補佐をしていただき感謝している。 ●教師等に相談することが難しいと感じている児童がまだ多い。担任やCO以外でも構わないので、安心して相談できる雰囲気のさらなる構築、それのアピールをしていく必要感をまだ感じる。また、教師に相談しづらくても相談できる誰かがいることが大切であることを啓発していく必要性を感じている。 ●不登校児童について、本人や家庭との連絡を中心に対応をしているが、まだまだ課題も多く、引き続き改善が必要である。 ●時代の流れと共に地域教材の扱い方も考えていかなければならないという局面になっている。授業内容に即さないところも見えてきている。時数の余裕がない中、どのように地域と向き合っていくか思案する必要性がある。	・いつでも児童の話を聞く体制をとっているが、まだ「待ち」の状態が多いのが現状である。児童の様子を常に観察し、日々の雑談を大切にするなど、アクティブソナーのように学校・教師側から情報や異変を探しに行き、少しでも違和感を感じた時に声をかけるようにしていきたい。そこから相談しても大丈夫という空気をつくっていきたい。 ・保護者からCOや学校巡回カウンセラーへの相談が年々増えてきており、周知できてきていると感じられる。しかし、ほとんどが保護者からのものであり、児童の中にまだ担任も含め話しづらいと感じているのも事実である。話しやすい、話してもいいと思える環境づくりがこれからも大切と感じている。 ・不登校児童へのよりよい対応をさらに模索し、必要性を高めていきたい。 ・地域教材については、教科のねらいなどを鑑みて対応していく学年、教科等他にできないか検討していく。 ・許す限りゲストティーチャーを招請していきたいと考えている。また、校外学習についても積極的に行っていきたいと考えている。教育活動をその時々の状況に合わせて、随時見直し、充実を図っていきたい。
2	かかわる力を育てる学校	④ルールとリレーションを確立した学年・学級集団の育成、学級状態の評価と改善点の明確化、だれでも気軽に相談できる相談体制の充実、SOSの出し方教育、命の授業の実践、「他者理解」「他者意識」をもった学校生活における指導 ⑤児童会主体の活動を推進 ⑥教職員が率先垂範	○●高学年を中心に交換授業等を行っているので、児童理解が進んでおり、いじめ等の対応も学年ですぐに情報共有するなど、迅速に対応することができたと考えているが、一部、まだ人間関係に対して満足していない児童が少数いる。この事実をしっかりと受け止めて今後も「いじめは絶対に許さない」という強い思いをもち、教育活動を進める。 ○縦割り活動等をはじめとする異学年交流については、上級生が下級生をよく面倒みていると感じる。これは集団登校をしている成果もあると考える。 ○●他者理解、他者意識の充実を図ることができたが、まだ自己本位的な部分も認められるため不十分だと感じる。今後も引き続き続けていきたい。 ○●挨拶に関しては、昨年までに挨拶をする児童が増えてきていた。今年はさらに自ら挨拶をする児童が増えてきている。いい傾向にあるので挨拶を自然とできる児童を増やすためにも今後も続けていく。	・これからも学年の児童を学年の教師全員が担任のつもりで児童の支援をしていきたい。そのためにも交換授業等効果的なことは引き続き行っていく。また、問題発生の時点で、まずは状況をしっかりと把握し、まずはその問題をうけいれることから始めたい。そこからどうすればよかったかなど、関係者みんなで考えていけたらと思う。 ・引き続き、「他者理解」「他者意識」というもの、つまり、自分以外の他者のことについても意識した言動を大切にした教育活動を行っていく。 ・挨拶も教師が率先して行うと同時に保護者や地域の方にも大人が率先して挨拶している姿をみせるようにお願いしていく。

3	くらしに生かす力を育てる学校	⑦児童会活動や日常的な教育活動での言葉へのこだわりと温かい評価、家庭へのフィードバック ⑧大規模災害を想定した危機対応の改善・強化、「自分の命は自分で守る」という意識の涵養、保護者を巻き込んだ情報モラルの指導とオンラインゲーム等今日的課題への対応、交通事故の防止、不審者対応 ⑨学校だより、情報配信メール等による情報発信と内容の充実、学校評価の定着	○行事ごとに行われる、家庭と連携した児童への励ましは、自分の成長した部分を認めてほめてくれているということで、とても励みになっている。これからも引き続き行っていく。 ○防災防犯訓練を真面目に行っている。毎年対応速度は速くなっているように思われる。訓練を真面目にやることが直接的に自分の命を守ることになるので、今後もしっかりと行っていく。 ○学校だよりと学年だよりを統合した。情報量的には少なくなってはいるが、必要なものを吟味して載せているため、伝わりやすいともいえる。情報量が足りないと判断すれば、必要に応じて追加の配付物やメール等で対応した。情報配信メールについては、必要に応じた発信を行い、保護者や地域に知らせることができた。また、ホームページ等を活用し、児童の活動について発信し、教育活動の理解につなげている。 ●情報モラルに関して、特別に問題になった事案はないが、実態がつかめないのが実情である。保護者の方々と連携して、情報の便利さ大切さとともに怖さも周知していきたい。	・災害に対し、「自分の命は自分で守る」ということは身についてきているように感じる。引き続き指導を続けていく。 ・GIGAスクール構想が進むにつれ、情報モラル教育の必要性がますます高まる。子どもだけでなく保護者の方も情報モラルについてよく知り、子どもたちへ伝えてほしいと思っている。今後もこのような場を設定し、情報発信にもつとめていきたい。 ・学校だより、学年だよりの統合によって、掲載内容をより吟味し、必要な情報をよりわかりやすく伝えられる工夫をしていく必要性を感じている。また、紙媒体での配付の要望も強く、DX化にいつ踏み切るか思案中である。まだまだ紙媒体の必要性を感じているので、両方活用しながら様子を見ていきたい。
4	さぐる力を育てる学校	⑩自分の考えを深める学びの研究、協働的な学習の取組、粘り強く学習できる子の育成、創造力を豊かにするための「読書」活動の充実 ⑪教科担任制を意識した交換授業や専科指導の試み、情報教育への適切な対応（学習面、環境面、HP、GIGA） ⑫限られた資源で個々の教育的ニーズに対応できる支援体制の工夫、通級指導教室の充実と様々なニーズへの対応、国際教室の充実	○●算数の研究を今年度も引き続き行っている。話し合い活動をもとにし、協働的に学び合える場を積極的に作り、自主的に学習に臨む姿が見られるような実践を行ってきた。一方で、積極的にそのような場を用意しないと自主的に学ぶ姿が見られないときもあったり、指導側も画一的になってきていたりしているように感じる。今後も探究心が見につき、そこからの深い学びにつながるより良い方法、教育的配慮等を模索していきたい。 ○交換授業は、児童指導の面からも教員の働き方改革の面からも大変効果的である。今後も行っていきたい。 ○取り出し活動、通級指導教室との連携は深まっている。年度末に通級在籍児童の保護者と担任が面談することで、さらに次年度への方針が明らかとなった。 ○●国際教室では、日本語が不得意な外国籍児童を中心に、その子に寄り添った学習を展開し、個人差はあるが日本語習得に向けて成果を残すことができた。一方で日本語習得が学習面からみるとなかなか難しい面もある。音としての日本語は理解できるが、文字としての日本語についてはまだまだ高いハードルがある。 ○GIGAスクール構想については、日頃から学習面、生活面ともに、GIGA端末を効果的に活用している。	・算数に限らず、引き続き、全教科での探究的な学習をめざす（単元を貫く学習問題の設定、毎時間の学習問題の板書の徹底等）。また想像・創造力の育成のため、「読書」の取組も引き続き充実させたい。 ・今後もGIGAスクール構想の原点に戻り、学習の中での効果的な活用について、お互い取組を紹介し合うなど情報共有に努め、高めていきたい。 ・通常級にいる支援の必要な児童、国際教室の児童の情報共有の仕方など、支援教育COを中心に、「支援教育」の視点をもって進めていきたい。 ・国際教室で学んだ日本語をいかに学習活動に生かしていくか、なかなか難しいが少しずつでも進めていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・地域にいても子どもたちが挨拶をしてくれることが増えてきている。とても良いことだと感じている。 ・GIGA端末はもう当たり前のように効果的に使っている。一方で、運用の仕方について学校での大枠は決まっているのだろうが、各担任によってルールが違うところもあるのではないか。一概にすべて一緒というわけにはいかないと思うが、学年である程度揃えておく方が好ましいのではないか。 ・学校評価の在り方で学校が何をみとるのかをもっとはっきりさせた方が、より子どものことがわかってくると思う。	・探究的な活動を様々な場面で行っていく。 ・読書活動の充実 ・きめ細やかな指導をするための様々な仕掛け　（例）学年内交換授業、少人数授業、取り出し授業、専科授業の実施。通級指導教室との連携。国際教室の充実・様々な今日的教育課題（GIGAスクール構想、キャリア在り方生き方教育、防災教育、情報モラル教育等）のさらなる充実 ・他者への思いやり、他者への意識、挨拶を大切にしていく。 ・学校評価において、学校が何をみとりたいのか再度検討しはっきりさせていきたい。そのうえで、その結果をコミュニティスクールの委員の方々等に示せたらと思う。